

「神さまの宝物」

イザヤ書 43 章 1～5 節 a

日本基督教団大宮教会牧師 熊江 秀一

みなさんこんにちは！日本基督教団大宮教会の牧師で熊江秀一と言います。今日はこの全学礼拝でみなさんとお会いできることを楽しみにして来ました。大宮教会は大宮駅東口から歩いて8分です。ぜひ日曜日の礼拝にいらして下さい。

教会には大宮幼稚園という付属幼稚園もありその園長も兼ねています。今日は午前中、幼稚園の7月のお誕生会でした。誕生日を迎える10人の子どもたちの頭に手を置いて祝福しました。牧師として、園長としてのうれしい務めです。そして今日午後、この礼拝でみなさまと礼拝をささげることができ神さまに感謝します。

マザー・テレサはただ一つの言葉を届けるために、インドの死にゆく人々の貧しい街に入っていました。それは「神さまはあなたを愛しておられます」という言葉です。今日、わたしもみなさん一人一人にこの言葉を届けるために来しました。

「神さまはあなたを愛しておられます」。

今日のイザヤ書には、この私たちに対する神さまの愛の言葉が語られています。

「わたしの目にあなたは価値高く、貴い。わたしはあなたを愛している」(4節)。

神さまはおっしゃいます。“わたしにとっての宝、それはあなただ”。神さまの目から見て、みなさん一人一人は価値ある、貴い、宝物です。

宝というのは他のどんなものも代わりがない、特別な価値があるということです。当時世界で最も栄えていたエジプトよりも、また同じナイル川流域の豊かな国、クシュ(エチオピア)やセバよりもあなたの方が大切だと神さまはおっしゃるのです。人間の社会では国のために人が犠牲になることがあります。しかし神さまはどんな国にも勝ってあなたが大切だとおっしゃいます。

「人ひとりの価値、その命はこの世界よりも、地球よりも重い」という言葉があります。一説によれば、この言葉は、このイザヤ書の御言葉から生まれたそうです。

みなさん一人一人は、神さまの宝物です。ダイヤモンドよりも金や銀、宝石よりも、またどんな国よりもあなたはわたしの大切な宝物だ。神さまはおっしゃるのです。

それでは私たちが神さまの宝物であるということはどういうことでしょうか。神さまは私たちが神の宝物であることを四つの祝福としてここでお語り下さいました。

その1つは、神はあなたを造られたということです。1節に「ヤコブよ、あなたを創造された主は、イスラエルよ、あなたを造られた主は、今、こう言われる」と告げられています。私たちが今、こうして生きているのは偶然ではない。神さまが私たちを造り、私たちに命を与え、私たちを生かして下さいから生きているのです。旧約聖書・創世記には「神はご自分にかたどって人を創造された」(創世記

1:27)と告げられています。また新約聖書エフェソの信徒への手紙には「あなたがたはキリスト・イエスにあって造られた神の作品である」(エフェソ2:10口語訳)と告げられています。神さまは愛を込めて、私たち一人一人をご自分に似た者として、神のかたちに造られました。私たち一人一人は神が愛を込めてお造りになった神のすばらしい作品なのです。

そして2つ目、それは神さまが私たちの名をいつも呼んで下さるということです。1節に「あなたはわたしのもの、わたしはあなたの名を呼ぶ」と告げられています。神さまの宝物である私たちはいつも神さまに名前を呼ばれているのです。名前を呼ぶというのは、その人が大切な存在だからです。幼稚園の子どもたちも何々ちゃん、何々君と名前を呼ばれて成長します。それは大人になっても同じです。名前を呼ぶということは「私はあなたを大切に思っています」ということです。私は赤ん坊の時、高熱が何日も続き、生死をさまよったことがありました。その時、母が何日も昼も夜も看病し、祈り、そして私の名前を呼び続けてくれたと聞きました。私たちは親や家族、周りの人たちから名前を呼ばれながら生きているのです。

しかしその親や家族にもまして名を呼んで下さる方がいます。それは神さまです。神さまはいつも私たちの名前を呼んでおられます。忙しいとそれに気付かなくなることもあります。親の呼びかけを「うるさいなあ」と思うように、神さまの呼びかけも「うるさいなあ」と思う時もあるかもしれません。しかし神さまはいつもどこでも私たちの名を呼ばれます。私たちが神の宝物だからです。この神の呼びかけにいつも耳を澄ませ、お応えしたいと思うのです。

そして3つ目、神さまは宝物である私たちの罪の責任を取って下さるということです。1節で「恐れるな、わたしはあなたを贖(あがな)う」。そう神さまはおっしゃっています。神さまが私たちの罪の責任をとって下さるのです。私は子供の時、生意気な子供でした。ある時、隣に住んでいる親戚のおばさんにひどいことを言ってしまいました。そのことを知った両親は私のことを厳しく叱り、私を連れておばさんのところに謝りに行きました。でも私はその時、涙があふれて謝ることができませんでした。そんな私に代わって両親が謝ってくれました。何度も何度も謝ってくれました。わたしたちは罪人です。そんな私たちの罪の責任をイエスさまが取って下さいました。イエスさまが十字架にかかって、私たちの罪の身代わりとなり、命を捨てて下さることで、私たちの罪をゆるして下さいました。そして私たちに神の子としての祝福を与えて下さったのです。私たちを宝物として大切に思って下さる神さまはそれほどまでして私たちを愛して下さいしているのです。

そして神さまは私たちにおっしゃるのです。「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」。これが神さまの宝物である私たちへの四つ目の祝福の言葉です。神は私たちといつものどんな時も共にいて下さいます。なにがあっても私たちと共にいて、守り、名前を呼んで導き、救い出して下さるのです。

VIPという言葉があります。Very Important Person. 超重要人物の頭文字です。日本でも、VIPの席、とか、VIP待遇とか、この言葉は日常的に使われています。しかしこの言葉は、人間を分け隔て、一部の人を特別扱いする言葉ではなく、本来は私たち一人一人に与えられている神さまの特別な愛を示す言葉だと言われます。

「Very Important Person in God eye's」。このイザヤ書の語る「わたしの目にあなたは価高

く、貴い」と宣言される私たち人間に対する神の愛。それがVIPに込められているのです。

今日、この神さまの愛を共に心に刻みたいと思います。聖学院大学のお一人お一人は神様にとって価値ある宝物です。皆さんは、神さまのVIPな一人一人として、神さまに造られ、神さまに名前を呼ばれ、赦され、神がいつも共におられることを覚えていただきたいと思います。「わたしにとってあなたは価高く貴い。わたしはあなたを愛している」。

(祈り)天の父なる神さま、イエスさまによって私たちを愛して下さり、感謝いたします。聖学院大学のお一人お一人が、神に愛された神さまの宝物として、祝福された人生を歩んでゆくことができますように。

2024年7月3日 聖学院大学全学礼拝